

# 庄原市戦没者追悼式 並びに平和祈念式典



本市の戦没者に哀悼の意を表すとともに、恒久平和を祈念するため、庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典を次のとおり開催します。

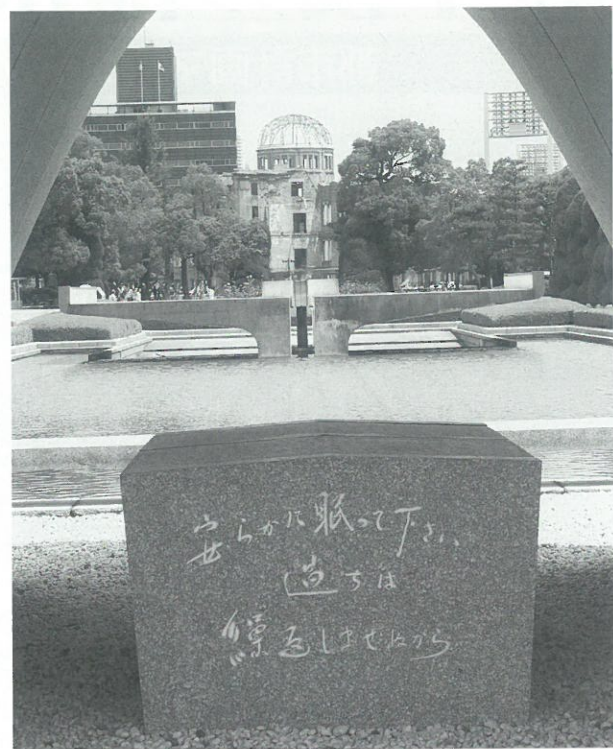
多くの皆さんの参加をお願いします。  
とき 8月27日(水) 10時～  
ところ 庄原市民会館

※当日は要約筆記による案内、各支所からの送迎バスを用意しています。また、イントラネットでの中継も行いますので、各学校、公民館（自治振興センター）などで式典をご覧いただけます。

送迎バスの利用は、8月15日(金)までに各支所へ申し込みください。(定員がありますので、ご希望に沿えない場合はご了承ください。)

## 問い合わせ

社会福祉課 ☎0824-73-1210  
西城支所保健福祉室 ☎0824-82-2202  
東城支所保健福祉室 ☎08477-2-5131  
口和支所市民生活室 ☎0824-87-2114  
高野支所市民生活室 ☎0824-86-2114  
比和支所市民生活室 ☎0824-85-3002  
総領支所市民生活室 ☎0824-88-3110



ました。先生は「これまでこの歌を何度も歌ったけど、こんなにすばらしい合唱は初めて。朗読会で感じたものが大きかったのでしょう」と話していました。子どもたちの素直な感性に、「わたしたちの方が大きな感動と元気をもらいました」と3人は目を潤ませていました。

本年度から、朗読に合わせてスクリーンに写真を映し出すなど、映像協力している口和支所教育係の才木雅仁係長は「3人のすばらしい活動に触れ、市内各地で宣伝している。このような市民活動をどんどん伸ばしていくことが、平和に期待を寄せていました。被爆から60年が過ぎ、子どもたちの親はもろもろ、そのおじいさん、おばあさんも戦争を知らない世代となり、家庭の中で戦争体験を語り継ぐことが困難な状況です。しかし、朗読を通じて被爆者の思いや原爆が

もたらした悲惨な状況に触れると、戦争を知らない子どもたちも、涙を流しながら聞いています。朗読を通じて純粋に戦争や核兵器はいけなさと感じてもらえるだけでなく、被爆の悲惨さを伝えていくのは、広島に住んでいるわたしたちの務めだと思ひ、これからも活動を続けていきたい。口和本の会」の平和を願う祈る心が、子どもたちに広がっています。



原爆の写真をスクリーンに映し、朗読する「口和本の会」

被爆から60年以上が経過し、被爆体験の継承が切実に求められています。そんな中、口和町の読み聞かせグループ「口和本の会」は、被爆体験記の朗読会を小中学校などで開催しています。きっかけになったのは、同会の岩瀧朋子さんが国立広島原爆死没者追悼平和祈念館（広島市中区）の「被爆体験記を読み語るプロジェクト」に出合ったこと。「子育てから開放され、社会に貢献できる活動がしたい。しかも、口和町だけでなく、もっと幅広く活動できる場がないか」と思っていた岩瀧さんは、新聞記事の朗読ボランティア募集が目ざまり、広島市へ研修に通いました。この朗読ボランティアは、被爆体験記や原爆詩を読み語ることによって、幅広い人々と被爆者の記憶や思いを共有し、次世代へと引き継いでいくことが役目。研修で、被爆の実態や元アナウンサーから朗読の実践を学びました。

研修を終えた岩瀧さんは、広島市内の小中学校や祈念館だけでなく、地元の小中学校でも朗読会をしたいと考えました。この思いに、「土曜本の会」で一緒に読み聞かせのボランティアをしていた川崎弘子さんと花本弘子さんも賛同。被爆体験記を朗読する「口和本の会」を3人で立ち上げました。また、そのことを聞いた口和公民館の山岡芳晴館長は「朗読会を公民館事業でしたらどうか。何か後ろ盾があった方が活動しやすいし、受付窓口も公民館が引き受けよう」と支援に乗り出しました。

平成17年7月、口北小学校で「被爆体験記朗読会」を初めて開催して以来、市内の小中学校をはじめ老人会などにも招かれるようになり、活動の場が徐々に広がっています。本年7月18日の川北小学校では、原爆被害の概要を紹介するビデオの後、3人が生々しい被爆体験記と原爆詩を語りかけるように朗読すると、児童たちは家族や友人を失った悲しみ、焼け野原になった街の惨状を思い描きながら、悲しそうな表情で、真剣に聞き入りました。原爆の恐ろしさから、時折大きく深呼吸したり、息を飲み込んだり……。最後に児童全員で平和への祈りを込めて、原爆の歌「おりづる」を大声で歌い



左から岩瀧さん、花本さん、川崎さん



真剣な表情で朗読を聞く川北小の児童